

# 総務常任委員会閉会中所管事務調査報告

## 調査地及び調査項目…

岩手県紫波郡紫波町

宮城県牡鹿郡女川町

・官民連携の地方創生：オガールプロジェクト

・公民連携のまちづくり

## 調査期間…

令和5年7月12日(水)～14日(金) 3日間

1998年、紫波町にJR紫波中央駅が開業し、町は駅前に10.7haの土地を再開発のために取得しましたが、財政的な問題から頓挫しました。しかし、2009年に「紫波町公民連携基本計画」が策定され、官民連携によるまちづくりが始まり、官民連携会社「オガール紫波株式会社」を設立し、駅前都市や公共施設の整備など多くの成果を上げました。このプロジェクトでは、極力、国の補助金に頼らず、必要な資金のほとんどを地元の金融機関から調達し、公共施設と民間施設を結びつけて賑わいと雇用を創出し、持続的なまちづくりを実現しました。官民連携での官と民の責任を明確に区分し、計画的に事業が展開されています。



紫波町にあるオガールプラザ

女川町は震災で7割以上の建物が被災しましたが、「とりもどそう 笑顔あふれる女川町」を目指し、「防災」「産業」「住環境」「保健・医療・福祉」「人材育成」の5本柱を復興方針に決めました。また、水産業や商工業などの業種の垣根を越えた民間組織「女川町復興連絡協議会（FRK）」を立ち上げ、「還暦以上は口を出さず」と、10年後、20年後に中心となる若者世代に町を託し、将来の子供たちが誇れるまちづくりを目指しました。このほか、地域内外を繋ぎ、地域課題の解決に向けて取り組むために設立された「NPO法人アスエノキボウ」は、「お試し移住プログラム」や「創業本気プログラム」による定住人口の増加や、活動人口を増やすことで生まれる「にぎわい」や「活力」をもたらし、企業・団体と連携することで、若い世代を町へ誘引する事業を展開していました。



女川駅前の風景

行政主導だと補助金に頼りがちになるが、両視察先では官・民が連携することにより、民間のしっかりとした事業経営によるサービス水準の向上や経営感覚で新たな事業が展開されています。両町とも、将来を見据えて若者を中心とした活力ある持続可能なまちづくりを目指し、町の中心部である駅前が発展し続ける取組が行われていました。

# 産業建設常任委員会閉会中所管事務調査報告

## 調査地及び調査項目…

- 岐阜県美濃加茂市 ・ 森林環境譲与税を活用している先進自治体の視察
- 岐阜県多治見市 ・ コンパクトシティの形成に取り組む先進自治体の視察

## 調査期間…

○令和5年7月18日(火)～20日(木)3日間

美濃加茂市では、里山千年構想を策定し、有害鳥獣による農作物への被害を背景に、里山整備、里山活用、資源活用の三本柱を重点として取り組んでいます。地域や市民が積極的に参加し、森林環境譲与税を活用して様々な事業を実施しています。また、岐阜県では「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動」を通じて、企業・大学と地域が連携し、森林づくりに協力しており、社会的価値向上や地域活性化が期待されています。曾於市でも同様の取組を検討する必要があるという委員の意見が示されました。

多治見市は平成12年をピークに人口減少が続き、少子化や高齢化が進行している問題に対処し、都市への投資を増やすために、コンパクトシティの実現を目指し、総額200億円の計画が策定されています。立地適正化計画では「ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するための誘導方針が示されており、中心拠点と地域拠点への都市機能の誘導、公共交通利便性の高い地域への居住の誘導、公共交通ネットワークの維持・構築が重要視されています。駅周辺の市街地整備に合わせた巨大な事業であり、多治見市長も我々の事務調査を歓迎されるなど、大事業への意欲をひしひしと感じました。

委員からは大規模な開発を伴う事業は模倣できるものではないが、本市も少子高齢化は現実的であるので、旧町の中心部への高齢者住宅や高齢者福祉事業所の誘導、将来人口を見据えた市民サービス計画、公共交通機関の利便性向上、SKLVに関連した財部市街地の在り方等を議論し、会社・企業・工場等の誘致を進め、「曾於市コンパクトシティ」の形成に取り組む必要があるとの意見がありました。

## 適材適所



### アベマキは硬い⇒天板に最適

狂いが激しく材として価値がないといわれてきたアベマキ。乾燥の研究・実験を実施し、狂いやすい特性を克服しました。とてもきれいなアベマキの色は落ち着きをもたらし、1枚1枚違う模様は個性を育みます。

\*取り外した合板は棚板としての利用を検討しています。  
\*1kgほど重くなりましたが、子どもでも持てる重さです。  
(増えた重さは、私たちの思いです)

### 従来のスチール製脚部は継続利用

使えるものは使います。  
無駄に新しいものは作りません。



多治見市街地での移動を担う  
コミュニティバス

美濃加茂市北部に群生しているアベマキを使い学校机の天板を製作。市や森林組合等が中心となり、地元の小学6年生や製材所などとプロジェクトを進めている。